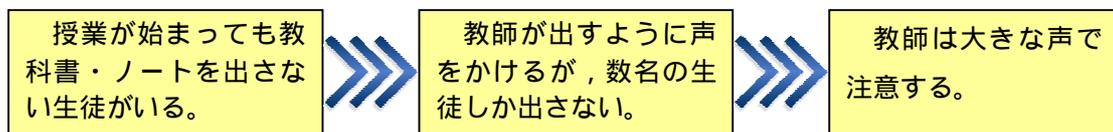


授業のプロフェッショナル 鹿嶋先生に学ぶ

高知市集中研修「学級経営」研修会が8月、10月に高知市立潮江中学校を会場に行われました。夏季研教育相談部会の講師でもある東京都荒川区立第四中学校の鹿嶋真弓教諭を迎え、「hyper-QUの結果を有効に活用するための人間関係づくり<一人ひとりの子どもが想いを語り、つながり・輝ける学級づくり>」を演題に講話をしていただきました。今回のリーフレットでは、そのなかの一部をお知らせします。日々の指導の場面で参考になれば幸いです。

授業の中でこんな例はありませんか？ 陥りやすい悪循環を良い循環に変えてみましょう

例 授業が始まって教科書・ノートを出さない生徒がいる場合

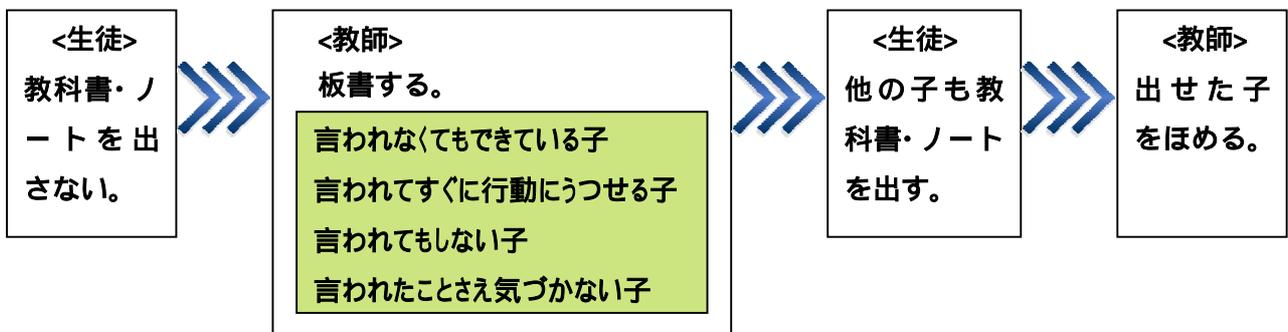


同じパターンが繰り返される場合は、悪循環に気づき、かかわり方を工夫して、変化を起こすことが大切です。

つまり、教師の対応のパターンを変えてみるのです。すると、生徒の行動が変わってきます。



変化後の良い循環



「言われなくてもできている子」「言われてすぐに行動にうつせる子」には、自分で気づいてやっていることに対して、その場で『成長できるんだね』とほめます。この対応が「言われてもしない子」「言われたことさえ気づかない子」へ、行動を示さずに変化を与えることになります。

変化を起こすコツ

